

07年度卒業式・学位記授与式行われる

信義と礼節をもって さわやかな人材に

2007年度の専修大学卒業式・学位記授与式が穏やかな日和に恵まれた3月22日、東京・千代田区の日本武道館で行われた。学部卒業生、大学院修了生、専門職大学院(法科大学院)修了生あわせて4250人を、恩師やご父母が祝福した。

学位記、川島記念賞が各総代に贈られたあと、日高義博学長が式辞を述べた。卒業生、修了生を代表して浦野季保さん(文学部)が「さまざまな価値観や考え方



▼喜びの「胴上げ」=会場の日本武道館前で

にふれた大学生活は、私たちの人生にかけがえのない彩りを与えてくれた」と謝辞を述べた。

学長式辞

日高 義博

一行に凝縮できる生き方を

学窓を飛び立とうとする皆さん、在学中に自己発展の基軸となるものを見いだすことができたでしょうか。皆さんにとって大学とは何であったでしょうか。解答は、直ぐに出てくるものではないし、また同一でもありません。ここに大学教育の妙味があります。

ただ、学窓を飛び立つ者は、130年になんなんとする専修大学の歴史を継承し、建学の精神を社会において花開かせる責務を負っていることを自覚しなければなりません。本学の21世紀ビジョンである「社会知性の開発」は、大学の知の発信と共に、卒業生が自己を見失うことなく社会においていかに貢献するか、この点にかかっています。

専修大学の教育は、在学中だけのものではありません。むしろ、皆さんが社会に出てからどういう生きざまを見せることになるのが重要です。すでに皆さんは、在学中の勉学や体験により、社会の荒波を乗り切る上での羅針盤を身につけています。専修大学と卒業生との絆は、一時のものではなく、生涯のもです。在学中に描いた夢の実現に向け、信念をもって果敢に挑戦して行って下さい。願わくば、自分の人生を一行に凝縮できるだけの生き方をしてほしいと思います。

素晴らしい業績を残した人は、その人なりの一生を一行に凝縮するという事です。一行に凝縮されうるものは、2、300年経っても光を失わず、キラリと光っています。専修大学の歴史は、これからも卒業生によって築かれていきます。皆さんがそれぞれの分野においてキラリと光る存在となることは、専修大学の教育研究の生きた証でもあります。

専修大学の歴史の中で、創立者である相馬永胤、田尻稻次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4先生が光を放つ存在であることは申すまでもありませんが、最後に2代学長の阪谷芳郎先生のキラリと光る話をしておきたいと思います。阪谷先生は、大蔵大臣、東京市長、貴族院議員などを歴任されています。本学の学長に就任されたのは大正13年で年齢61歳です。

本学の歴史の上で、三つの大きな節目があります。一つ目は創立の時期、二つ目は専門学校令から大学令による大学に移行する時期であり、三つ目は旧制大学から新制大学へと切り替わる時期です。阪谷先生は、二つ目の節目の前後の苦難の時期に募金活動に尽力され、大正11年には昇格が実現します。大正12年8月に田尻先生が亡くなられ、9月には関東大震災で校舎が全壊するという専修大学にとって苦難

の時期に突入しますが、この大混乱の時期に阪谷先生は、本学の運命を握るかじを取られたのです。

田尻先生が、大蔵省に関係が深かったことから阪谷先生も専修人となられて、早い時期から関与され、創立者たちの次の世代を担う学長として、初代学長の相馬先生からバトンを渡されたのです。創立者たちが留学先にあつて、幕末の討幕派か佐幕派かという対立のしがらみを捨て、高等教育によって我が国の骨格を支える人材を育成しようとした熱き思いは、光った人材であつた阪谷先生に託されたのであります。

阪谷先生の伝記によりますと、「『質実、剛健、真摯(しんし)、力行』の校風をもって、常に学生を指導し、人格の陶冶(とうや)と思想の善導に重点をおいて、虚を去り実に重きをおき、実社会に役立つ実践的な人材を養成するのに務めた。」と記されています。本日学窓を飛び立つ皆さんに対する羅針盤になりうる言葉です。

学問の発展も、大学の発展も、社会の発展もひとえに人材にかかっています。社会知性の開発に際しては、信義と礼節をもって事に当たり、さわやかな凜(りん)とした人材になられることを祈念いたします。

(要旨)

創立130年記念事業

テレビCM第2弾 今年も4月から放映

あなたにとって、大学とは？

専大生の声を届けます。

創立130年記念事業の一環として、本学のさらなるイメージアップとブランド価値の向上を目指し、昨年1年間、フジテレビジョン「FNNスーパーニュース」に番組提供とCM放映を行ったところ、学内外から大きな反響を呼んだ。

今年も4月1日から、同じ番組内でCM第2弾を1年間放映することが決定し、2月から3月にかけて生田キャンパスで撮影が行われた＝写真。今回のテーマは「あなたにとって、大学とは？」。制作は昨年と同じコピーライターの渡辺潤平さんと撮影・竹内鉄郎監督のコンビ。



今回は、「社会知性」を「意志を持って自分を前に進めていく能力」ととらえ、専修大学で学んでいる学生のリアルな言葉、何かに向かう姿勢こそが、「社会知性の核」になるというコンセプトのもと、160人以上の学生にインタビューを行い、「あなたにとって、大学とは？」を学生が自分の言葉で語った5本のCMが完成した。最後に流れる「専修大学」のナレーションは女優の奥貫薫さんが担当している。